

日本経済論（第11回） 17.10.25
 - 日本の貿易構造の変化：アジア諸国の経済発展の影響 （安孫子）

1. 参考文献

- ・「日本国勢図会」第63版、矢野恒太記念会、2005年（CD-ROM版も）
- ・「国際収支統計」「本邦対外負債残高」財務省ホームページ（<http://www.mof.go.jp/1c018.htm>）

2. 国際収支の概要

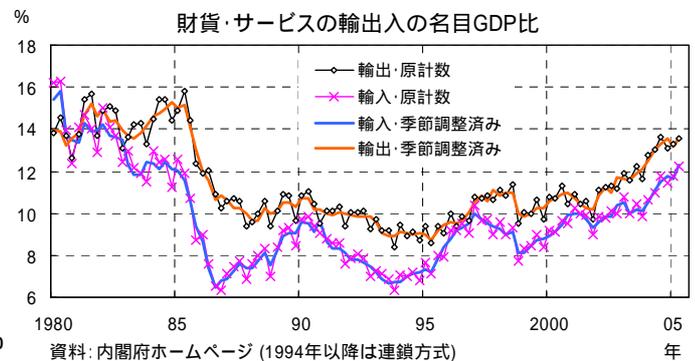
- ・経常収支、資本収支、外貨準備増減、誤差脱漏の4項目で構成。この4項目の合計は毎期ゼロ。

$$\text{経常収支} = \text{貿易・サービス収支} + \text{所得収支} + \text{経常移転収支}$$
 このうち、「貿易・サービス収支 = 貿易収支 （財の輸出入） + サービス収支 」の関係

$$\text{資本収支} = \text{投資収支}$$
（金融債権債務の移動） + その他資本収支
 このうち、「投資収支 = 直接投資 + 証券投資 + その他投資」の関係
- ・複式簿記の考え方で作成（財務省発表）。国際収支統計はGDP統計等と整合的 IMFのルール

3. 財・サービスの輸出の構成

- ・名目GDP比は近年10~14%程度（季節調整済み）
 振幅の幅は輸入より若干小さい
- ・輸出の主要品目は、機械工業の製品が多い。
 2004年は機械類44.1%、自動車15.1%等
 電機・自動車等では輸出依存度が高い
 1934~36年平均では繊維が57.6%と大半
- ・地域別はアジア51.4%、北米23.8%、欧州17.0%
 個別国では、米国22.4%、中国13.1%、韓国7.8%
- ・輸出に影響する主要因： 外国為替相場（円安が有利）、貿易相手国の景気、日本の景気 等



4. 財・サービスの輸入の構成

- ・名目GDP比は近年8~12%程度（季節調整済み）・・・GDPの控除項目： $Y = C + I + G + (X - M)$
- ・輸入の主要品目では加工製品も増加中 **水平貿易の割合**（1980年には9割が工業用原料+食料）
 2004年は工業用原料(43.5%等)や食料(10.8%)のほか資本財(27.2%)や耐久消費財(8.4%)も多い
- ・地域別(2004年)では、アジア59.0%、北米15.6%、欧州15.5%、オセアニア5.0%の順。
 個別国では、中国20.7%、米国13.7%、韓国4.8%、オーストラリア4.3%の順。アジア諸国の経済発展に伴い、製造業が生産拠点をアジア諸国に移管したこと（対外直接投資を実施）が輸入に影響
- ・輸入に影響する主要因： 外国為替相場（円高が有利）、日本の景気、貿易相手国の景気、原材料・燃料価格、対外直接投資の累積 等

5. 貿易・サービス収支の黒字と貿易摩擦

- ・「貿易・サービス収支」黒字の名目GDP比は近年1~2%で推移（ここ1年は、やや縮小）
 この点、バブルの初期(80年代後半)には4%に達していた 深刻な「日米貿易摩擦」が発生
 その後、円高や海外生産移管、日本経済の停滞などにより貿易摩擦は沈静化（いつまで続く？）
- ・赤字国からは「失業の輸出」「近隣窮乏化策」などと非難されがち 保護貿易を求める動き
 経済学の教える「自由貿易のメリット」とは異なる政治的な保護貿易主義の動き
 保護貿易を抑えるべく、FTAを締結する動きが広がりつつある
- ・実は、貯蓄投資バランスが大きく影響 ... $S - I = (G - T) + (X - M)$
- ・「貿易・サービス収支」の黒字は、対外純資産の拡大につながる
 2004年末時点の対外資産残高は433.9兆円、負債残高は248.1兆円 ... 純資産は185.8兆円
 以上

11月26日(土)15~17時に国際経済学科開設記念講演会「進展する経済のグローバル化とアジア」(B館101教室)が開催されます。参加してA4約1枚の感想文を書いた人にボーナス点を最高5点つけます。